

研究 主題	自分の考えを持ち、主体的に学ぶ生徒を育てる指導 — 生徒が自分の考えを説明し合う学習を通して —
----------	---

第2学年 社会科学習指導案

指導月日 令和元年11月15日

所属校名 栗原市立栗原西中学校

氏名 小川 康輔

1 単元名 「第5章 開国と近代日本の歩み 1節 欧米の進出と日本の開国」

(東京書籍 新編 新しい社会 歴史)」

2 単元の目標

- (1) 近代の日本と世界について学習したことを踏まえて、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題の解決に向けて、その手段や方策を主体的に追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】
- (2) 近代国家を成立させた欧米諸国が市場や原料供給地を求めてアジアへ進出し、特に日本の政治や社会にどのような影響を与えたのかについて考え、自分の言葉で適切に表現している。 【思考・判断・表現】
- (3) 年表やグラフなどの資料を活用して、開国とその影響によって19世紀後半当時の日本の社会が大きく変容したことを捉えている。 【資料活用の技能】
- (4) 欧米諸国における産業革命や市民革命の動向、アジア諸地域への進出などを基に、欧米諸国における近代国家の形成や、同時期におけるアジアの社会と経済の変容を理解している。 【知識・理解】

3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会科の歴史的分野の内容（5）のア及びイに該当し、次の2つの内容を生徒に理解させることを主なねらいとしている。

1つ目は、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことである。2つ目は、江戸幕府が対外政策を転換して開国し、開国による政治的及び社会的な影響が明治維新の動きを生み出したことである。この2つの内容は、17世紀ごろからの世界の動きとの関連を踏まえて追究したり、解決したりする活動を通して学習することとしている。

ここでの学びは、現代社会を読み解く上で重要である。生徒たちは、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることによって、ここでの学びが現代社会における政治的・経済的諸課題につながっていることを自覚し、さらに国際化に伴う現代社会の変容を捉えることができると考える。これらのことを踏まえて、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を見定め、それらの解決に向けた方策や方法を主体的に追究しようとする力を身に付けることができると考えている。

4 生徒の実態 [第2学年2組 男16名 女子11名 計27名]

社会科に関する意識調査（6月18日実施に実施し、24名が回答）の結果は、図1のとおりである。歴史的分野の学習に苦手意識を持つ生徒は、18名であった。歴史的分野の学習について「得意」と回答した生徒は、いなかった。

「歴史上の出来事や人物の働きなどを覚えることについて」や、「調べたことをまとめることについて」は、「どちらかといえば苦手」「苦手」と回答した生徒は全体の半数を超え、苦手意識を持つ生徒が多いことが分かる。

自分の意見や考えを説明することについても苦手意識を持つ生徒が多く、得意意識を持つ生徒は7名であった。

意識調査の結果から、歴史的分野の学習において調べたことをまとめることや、社会的事象について自分の意見や考えを説明することを苦手としている生徒が多いことが分かった。

この課題を解決し、生徒一人一人の社会的事象について調べまとめる技能や、思考力、判断力、表現力（社会的事象の意義等を考察する力、考察や構想したことを説明する力）を育むために、調べたことをまとめたり、生徒一人一人が自分の考えを持って相手に説明したりする魅力や意義を自覚できるような、調べ学習や説明し合う学習を展開したい。

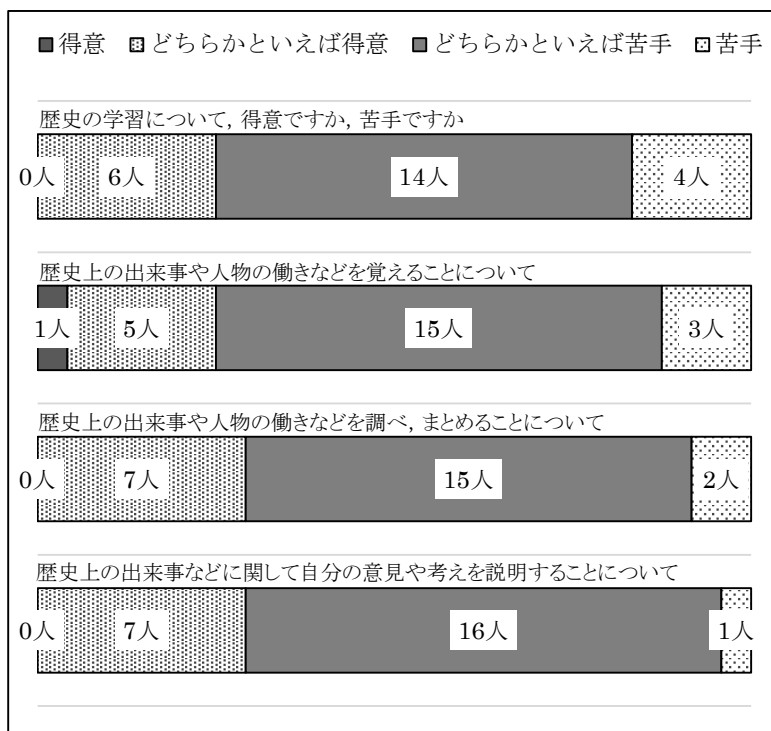


図1 意識調査の結果 第2学年2組 27名中24名回答

5 指導観

生徒一人一人の社会的事象の意義等を考察する力、考察や構想したことを説明する力を高めるため、本単元を生徒が単元の見通しを持つ時間、調べたり話し合ったりする学習を通して欧米のアジア進出と開国による影響について追究する時間、追究してきたことをまとめる時間の3つの時間で構成する。調べたり話し合ったりする学習を通して、欧米のアジア進出と開国による影響について追究する時間では「課題を見いだす」「調べる」「話し合う」「作業する」「まとめる」の5つの学習活動を組み入れる。

第1時は、単元を貫く学習課題を提示して課題を見いだす活動を行い、単元を貫く学習課題を解決するために必要な情報を考えさせ、学習に見通しを持たせる。

第2～9時は、単元を貫く学習課題を解決するために必要な情報を獲得させるなど、学習の成果を積み上げていく時間とする。授業では、学習内容を焦点化するために「もの、ひと、こと、世界」を学習の視点とし、視点を持って学習することを生徒に意識させる。授業の終末時には自分の学びについて振り返りを行う。振り返りでは、「授業計画と自分の学びの分析シート」を活用して自己の学びを分析させる。

第10時には、毎時間の学習の成果を基に、単元を貫く学習課題についてまとめさせる。まとめは、国語科の教科用図書（東京書籍 新編 新しい国語2）に記載されている「調べて考えたこと伝えよう」を活用してまとめさせる。

6 研究主題との関連

本研究では、生徒が自分の考えを持つことに焦点を当て、社会的事象について自分の考えを説明し合う学習を通して、主体的に学ぶ生徒を育てることを目指している。

本単元は、欧米諸国がアジアに進出し、その影響を受けた日本も対外政策を転換して開国したこと、開国による政治的・経済的・社会的な影響が明治維新の動きを生み出したことを理解させることをねらいとしている。「課題を見いだす」「調べる」「話し合う」「作業する」「まとめる」の5つの学習活動を単元の中に効果的に組み込み、生徒の主体的な学びの中で本単元の内容を理解させ、目標の達成を目指したい。「話し合う」学習活動を組み入れた授業では、授業の前半部で基本的な知識に触れ、後半部では、学んだことや自らの生活経験等を基にして学習課題の解決に向けて自分の考えを書かせ、説明したり、

議論したりすることを通して学習課題をよりよく解決させる。

7 単元の指導と評価の計画（10時間扱い 本時6／10）

単元を貫く 学習課題	小単元を貫く 学習課題	小単元	時	4つの視点 「もの」 「ひと」 「こと」 「世界」	主な学習活動 調：調べる 話：話し合う 作：作業する ま：学習成果をまとめる	評価規準 【関】 関心・意欲・態度 【思】 思考・判断・表現 【技】 資料活用・技能 【知】 知識・理解
なぜ、欧米諸国はアジアに進出したのだろうか。また、開国により、日本の国内にどのような変化があったのだろうか。	なぜ、欧米諸国はアジアに進出したのだろうか。	欧米のアジア進出	1	「こと」：アジア進出 「世界」：欧米諸国	作：欧米がアジアに進出したことに関する質問をつくる。	【関】 欧米諸国が近代革命や産業革命を経てアジアに進出したことについて関心を高め、主体的に問題を見いだそうとしている。
			2	「こと」：市民革命 「世界」：イギリス、アメリカ、フランス	調：市民革命を経て、イギリス、アメリカ、フランスは政治的にどのように変化したのか調べる。	【知】 欧米諸国が市民革命を経て近代国家を形成し、民主政治への動きが広がっていった過程を理解し、その知識を身に付けている。
			3	「もの」：蒸気機関 「こと」：産業革命	調：産業革命による社会の変化を調べる。	【知】 産業革命による資本主義経済の成立と労働問題・社会問題の発生について理解し、その知識を身に付けている。
			4	「ひと」：リンカン 「こと」：南北戦争	調：南北戦争が起こった背景と、戦争後のアメリカの変化について調べる。	【知】 アメリカが領土を拡大していく中で南北戦争が起こり、対立を収束させてさらに発展していくことを理解している。
			5	「こと」：アヘン戦争 「世界」：イギリス	調：欧米諸国がアジアに進出した理由と進出によるアジアへの影響を調べる。 作：欧米諸国が進出した国や地域の変化を地図に書き込む。	【技】 ヨーロッパのアジア侵略の様子と侵略へのアジア諸国の対応を、グラフや地図から読み取り、地図にまとめている。
			6 (本時)	「こと」：独立宣言 「世界」：アメリカ	話：未来から来たあなたが、よりよい国（アメリカ）になるように、独立宣言に新たな条文を加えるとすればどのような条文を加えるか、それぞれの考えを説明し合う。	【思】 アメリカが市民革命から南北戦争を経て民主政治への動きを広げたことを踏まえ、よりよい社会を創るために必要なことを考え、表現しようとしている。
	開国により、日本の国内にどのような変化があったのだろうか。	日本の開国	7	「こと」：日本の開国、幕府の滅亡	作：開国による日本の変化に関する質問を作る。	【関】 開国による日本の変化について関心を高め、主体的に問題を見いだそうとしている。
			8	「ひと」：ペリー、井伊直弼 「こと」：日本の開国、不平等条約の締結	調：日米和親条約と日米修好通商条約の内容を調べる。 作：日米修好通商条約の締結による日本の経済と人々の生活に与えた影響について、表にまとめる。	【知】 条約の内容や不平等な点を理解し、その知識を身に付けている。 【技】 開国による経済的影響と人々の生活への影響について資料から読み取り、表にまとめている。
			9	「ひと」：徳川慶喜 「こと」：江戸幕府の滅亡	作：長州藩・薩摩藩の倒幕の動きについて、年表にまとめる。 調：王政復古の発令が行われた時の幕府の様子を調べる。	【知】 資料を基に長州藩と薩摩藩の動きを年表にまとめ、倒幕までの過程を捉えている。
			10		ま：欧米がアジアに進出した理由と開国による日本への影響を、学習した成果を基にまとめる。	【思】 近代国家を成立させた欧米諸国が市場や原料供給地を求めてアジアへ進出し、特に日本の政治や社会にどのような影響を与えたのかについて考え、自分の言葉で適切に表現している。

8 本時の計画

(1) 目標

アメリカが市民革命から南北戦争を経て近代民主政治への動きを広げたことを基に、よりよい社会を創るために必要なことを自分事として捉え、主体的に考えを表現しようとしている。

【思考・判断・表現】

(2) 本時の指導に当たって

単元を貫く学習課題「なぜ、欧米諸国はアジアに進出したのだろうか。また、開国により、日本の国内にどのような変化があったのだろうか。」を解決するため、前時までは小単元を貫く学習課題「なぜ、欧米諸国はアジアに進出したのだろうか。」について追究している。本時では、次の小単元を貫く学習課題「開国により、日本の国内にどのような変化があったのだろうか。」を追究するにあたり、日本を開国させたアメリカの歴史に焦点を当てる。生徒はアメリカの歴史について、イギリスの植民地支配から独立し、南北戦争を経て世界最大の資本主義国への成長までを学習している。学習したことを自分事として捉え、当時の社会や世界の諸問題についての考察に主体的に取り組み、よりよい社会を創り出していくために必要なことを考え、自分の考えを説明する力を高めたい。

そこで本時の導入部では、18～19世紀のアメリカについて、学習したことを確認する。確認後、本時の学習課題として「未来から来たあなたが、独立戦争終結時によりよい国（アメリカ）になるように、独立宣言に新たな条文を加えるとすればどのような条文を加えるかについて、そのように考えた理由と一緒に、まわりの人に対して納得してもらえるように分かりやすく自分の言葉で、自分の考えを伝えることができる。」を設定する。

展開部では、よりよいアメリカの国になるために必要なことについて、イメージマップを作成する。作成したイメージマップを基に独立宣言に加える新たな条文を考えさせたい。級友に相談したり、自分とは違う考えを持つ人に聞いたりしながら自分の考えをまとめられるよう、生徒同士で追究できる時間を25分程度確保する。

終末時は、生徒それぞれが考えた条文と理由を級友に説明する活動を行う。全員が説明し終えたことを確認した後、本時の振り返りを行う。振り返りは、「授業計画と自分の学びの分析シート」を活用して自己の学びを分析させる。

(3) 指導過程 別紙

(4) 本時の評価

評価規準	十分満足できる（A）	努力を要する生徒への手立て
アメリカが市民革命から南北戦争を経て民主政治への動きを広げたことを踏まえ、よりよい社会を創るために必要なことを考え、表現しようとしている。 【思考・判断・表現】	当時のアメリカの状況を理解するだけでなく、さらに現代の政治との違いや共通点、当時の政治に不足していた点に気づき、よりよい社会を築くことについて多角的に考察し、説明しようとしている。	アメリカの市民革命による政治体制の変化の意義と特徴について考えさせ、現代の民主政治との違いについて考えさせる。現代の民主政治の課題点を挙げさせ、課題点を解決するために必要なことを考えさせる。

(5) 準備物

- ① 生徒：教科書、地図帳、資料集、ノート、筆記用具
- ② 教師：教科書、自分の学びの分析シート、掛地図、PC、プロジェクター

(6) 板書計画 別紙

(3) 指導過程 別紙

段階	○学習活動 ・ 予想される生徒の反応	形態	・ 指導上の留意点 ◎評価
導入 10分	○前時までの学習を振り返り、欧米諸国が市民革命や産業革命を経て、アジアに進出したことを確認する。 ○アメリカがイギリスの植民地支配から独立してから、南北戦争までの歴史を確認する。	一斉	・ アメリカ（世界）と独立宣言（こと）を視点に本時の学習を進めることに留意させる。
【本時の学習課題】 未来から来たあなたが、独立戦争終結時によりよい国（アメリカ）になるように、独立宣言に新たな条文を加えるとすればどのような条文を加えるか、あなたの考えを説明しなさい。			
展開 30分	○「よりよい国（アメリカ）になるために必要なこと」について、イメージマップを作成する。 ○未来から来たあなたが、独立戦争終結時によりよいアメリカの国になるように、独立宣言に新たな条文を加えるとすればどのような条文を加えるかについて、そのように考えた理由と一緒に、まわりの人に対して納得してもらるように分かりやすく自分の言葉で、自分の考えを伝える。 ・ 一人の人間に権力が集中しないようにしなければならない。 ・ 議会を作り、国民の代表者による話し合いで国の政治を行う。 ・ すべての国民は人種差別をしてはならない。 ・ 国のリーダーは、他国との良好な関係を重視し、武力で他国を威圧してはならず、世界をリードする存在として平和を実現するために率先して行動しなければならない。 ・ 争いごとが起きた時は、武力で解決せず、互いによく話し合い、平和的に解決すること。	個 個 ↓ 一斉	・ イメージマップを使って、新たな条文を考えさせる。 ・ 答えは一つではないことを伝え、多様な考えが出るようにする。 ・ 根拠を持って考えた宣言文を説明することに留意させる。 ・ 説明し合う時は、相手の考えを否定しないように留意させる。 ・ 説明し合う時は、自分の考えとは違うものを見付けるように伝え、多様な意見に気付かせる。
まとめ 10分	○級友の考えを参考にしながら、独立宣言に加える条文をワークシートに記述し、ペアで発表し合う。 ○「自分の学びの分析シート」に自己の学習について振り返ったことを記述する。 ○次時の予告をする。	個 ↓ ペア 個 一斉	◎【思】アメリカが市民革命から南北戦争を経て民主政治への動きを広げたことを踏まえ、よりよい社会を創るために必要なことを考え、表現しようとしている。（ワークシート、発言） ・ 「やってみてよかったこと」「やった方がよかったこと（やれなかったこと、やらなかったこと）」の2点で自分の学びを分析し、シートに記述させる。

(6) 板書計画 別紙

【学習課題】

未来から来たあなたが、独立戦争終結時によりよい国（アメリカ）になるように、独立宣言に新たな条文を加えるとすればどのような条文を加えるか、あなたの考えを説明しなさい。

【アメリカの変化（18～19世紀）】

(前)		(出来事)		(後)		(前)		(出来事)		(後)		
イギリスの植民地	→	独立戦争	→	植民地から独立	…→	領土の拡大	→	国内での対立	→	南北戦争	→	北部勝利
		独立宣言		大統領制の誕生						(1861年)		工業が発展
		(1776年)										

アメリカ独立宣言（1776年）

ごく当然の心理として、すべての人間は平等に造られ、一定のゆずることのできない権利をあたえられている。その中には、生命・自由・幸福追求の権利が含まれる。

〈評価規準（ゴール）〉

そのように考えた理由と一緒に、まわりの人に対して納得してもらえるように分かりやすく自分の言葉で、自分の考えを伝えることができる。